

新世代モバイル通信システム委員会 技術検討作業班における主な課題について

平成31年3月27日

楽天モバイルネットワーク株式会社

各課題への当社の見解 1/2

1. WRC-19議題1.13候補周波数帯の共用検討

- 候補周波数帯のうち、Band n258 (26.6~27.0GHz) については、既に5Gで割当てが行われている28GHz帯周波数ブロックと隣接することから、800MHz幅をCAで使用することでさらなる高速通信が可能となるため、Band n258の共用検討を推進することを希望致します。

2. 4.9-5.0GHzの共用検討

3. 2.3GHz帯及び2.6GHz帯の共用検討

- sub-6周波数帯は、現行のLTEと電波特性に大きな差がないことから、共用検討を推進することは重要であると考えます。

4. 既存の携帯電話事業者等の周波数の5G化（既存バンドのNR化）に関する検討

- 当社は今年10月からBand 3 (UL: 1730-1750MHz DL: 1825-1845)でLTEを用いたサービスを提供予定ですが、将来的には5Gに対応する端末が増えてゆくことが想定されるため、既存周波数帯においても速やかにNRを導入し、SULやDynamic spectrum sharingを適用できるよう制度整備を進めることが必要であると考えます。

各課題への当社の見解 2/2

5. 定期検査の在り方に関する検討

- 新世代モバイル通信システム委員会報告書で言及の通り、アクティブアンテナが採用されている基地局装置では、OTA による無線特性の測定が必要となります。このような装置の定期検査を屋外等の基地局設置環境で OTA 測定により実施しようとしても、周辺の電波の影響等により正確な無線特性の測定が困難となる課題がございます。その為、定期検査の規制維持の必要性について検討を行うことが必要であると考えます。

Rakuten